

音源の位相チェック実験(4)
—アナログ再生における確認(3)—

1. はじめに

前報(2)に引き続き、アナログ盤の位相について確認します。

2. 音源の位相チェックの試聴方法

前報(1)同様、位相反転のバランスケーブルを使用します。

今回のシステムは前報(2)と同様、フォノイコとして、**Brooklyn DAC+**を使用しており、現在は出力にアンバランス接続をしています。アンバランス出力がありますので、これを利用します。

MySonic Signature Gold(LP-12/Glanz MH-9Bt) → 【MM ポジション入力】
→**Brooklyn DAC+** →しなの音蔵フェーダー

以上の経路で、**Brooklyn DAC+** →フェーダーは通常、**Brooklyn DAC+**のアンバランス出力端子を使用していますが、バランス出力端子に替えて、アンバランス RCA ケーブルを次のように接続をします。

Brooklyn DAC+バランス出力端子 → バランス/アンバランス変換プラグ
→ アンバランス RCA ケーブル (写真左)

Brooklyn DAC+バランス出力端子 → 位相反転のバランスケーブル
→ バランス/アンバランス変換プラグ → アンバランス RCA ケーブル (写真右)



前報(2)では、試聴は各種クラシックのアナログ盤をかけ替えながらバランスケーブル挿入のあるなしで試聴していましたが、今回は、ポップスとジャズの盤を使用します。

3. 音源の位相チェックの試聴結果

音源としては、前報(2)の再現を採る意味から、音楽ジャンルを替えて同様に各種レベルを揃えました。

BERAFONTE AT CARNEGIE HALL

RCA SRA-5190-91 日本ビクター

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになります。挿入無の方が、ベラフォンテが中央に定位します。

THE KINGSTON TRIO

CAPTOL CP9318B 東芝音工

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになります。挿入無の方が、トリオの立ち位置がしっかり固定し、ギターがシャープになります。

TORIO LOS PANCHOS

CBS SONY 29AP46 CBS SONY JAPAN

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになります。挿入無の方が、トリオの立ち位置がしっかり固定し、ギターがシャープになります。

JOHN DENBER Special 24

RCA SRA-9501-02 RVC

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになります。挿入無の方が、デンバーが中央に定位します。エコー感がきついで、もしかすると逆相かと思いましたが、そうではありませんでした。

SAXOPHONE COLOSSUS

FANTAGY Inc. OJC-291

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになりますが、モノラルですので、場合によっては、広がり感を好ましく感ずる向きがあるかもしれません。挿入無の方が、音像は中央に集中します。

Bags Meets Wes!

RIVERSIDE RLP 9407

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになります。挿入無の方が、音像はしっかり立ちます。

MJQ Last Concert

ATLANTIC P5177-8A ワーナーパイオニア

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、音像が広がりがちになります。挿入無の方が、個々の楽器の音像はしっかり立ちます。

4. まとめ

いずれも、定位がしっかりするという意味では、位相反転のバランスケーブルの挿入無の方が妥当な再生の姿だと感じました。エコー感がきついで、もしかすると逆相かと思うものもありましたが、そうではありませんでした。モノラルのものでは、音像が中央に寄りますので、逆相で広がり感を求める場合もあるかもしれません。

以上